

第26回長塚節文学賞 短歌部門

大賞

飯野 久子	茨城県龍ヶ崎市	一枚の紙に「感謝」という言葉遺して夫は旅立ちにけり
-------	---------	---------------------------

優秀賞

鯨本 ミツ子	京都府舞鶴市	嫁ぎきて初めの切手は十五円八十円まで残る母の文
眞庭 義夫	群馬県利根郡みなかみ町	かすみとも紛ふけむりの立つところ春うながして誰か哇焼く
黒澤 孝子	茨城県常総市	鬼怒決壊の日を点検の日と決めて備蓄の水の入れ替えをせり
野口 英二	茨城県土浦市	納屋近く炭で炭割る音聞ゆ雪は静かに積もりて止みぬ
小竹 克子	茨城県常総市	十五夜か呟く夫に病室のカーテンそっと少しあけたり

佳作

村田 光恵	茨城県潮来市	母の日の娘は二役ありがとう生んでくれて生まれてくれて
岡本 恵	茨城県常総市	ヤギの名はハイジと決めて野良仕事筑波山麓アルプス気分
宮川 礼子	茨城県筑西市	見詰められ何としてでも食べきらんこの一碗の粥の重さよ
青木 節子	長野県塩尻市	梅香る父母姉の亡き庭の遠きあの日の声はまぼろし
小川 健治	静岡県静岡市	あん餅を並べる店のあればよし春のお彼岸寺の門前
後藤 守	茨城県坂東市	亡き母の思いを胸に我妻が気持ちを変えて仕事いそしむ
松沼 聡	埼玉県草加市	老いた母父の形見をはなさずに昔話を延々とする
富永 加代子	千葉県市川市	芋植ゑるわが手の先を押しかへす土竜か否か土をうかがふ
五十嵐 茂雄	神奈川県川崎市	風に染まる乙女桔梗の青さゆゑ人恋ひしさの深まるばかり
田口 すい子	茨城県東茨城郡茨城町	稗を取る夫の帽子の見え隠れ鎌を上げての居場所の知らせ
岩渕 憲弥	東京都足立区	スキップし親追ひかける子等二人土曜日の午後駅へ行く道
高橋 喜久治	茨城県古河市	団地のなか頑固貫く田圃には蛙一〇〇匹今日も鳴きおり
横関 くに	茨城県常総市	掌にとれば母の声する職を退く吾に高価なる鎌買いくれし
高野 みね	茨城県つくば市	いつの間にかひとり暮らしになれました既読のつかぬラインをおくる
上岡 由紀男	千葉県市川市	どちらさまそう問う母に微笑んで息子と告げし心紡いで
佐藤 優羽	東京都府中市	マネキンが無数重なるように見え二秒みていた兵士の遺体
飯泉 知子	茨城県守谷市	盆すぎて早々走るコンバイン黄金の田にはすずめが遊ぶ
小野瀬 壽	茨城県那珂市	行ってみるか友の実家にタラの芽の天ぷら蕎麦が食べたくなって
岩岡 正子	茨城県筑西市	庭に出て雨の強さを確かめる傘持たぬ夫の帰りくころ
大石 浩史	三重県名張市	点睛を先に描きたる子をりてぼつりとした龍の絵並ぶ

入 選

中山 隆義	茨城県守谷市	吾がほほを珍しそうに撫でる孫真綿の如き手の平を持ち
会沢 ミツイ	茨城県常陸太田市	陽光浴び青空の下土作り石灰堆肥ふりて春待つ
松本 トシ子	大分県大分市	一言も言葉交さぬまま過ぎてデイケア去りし人偲びおり
安田 恭子	千葉県市川市	子を持たぬ娘の終末思ひをり娘を頼りて生ねばならず
宅間 洋子	茨城県常総市	遠き国と思へど近しウクライナ吾住む町に難民の居り
松崎 マサ子	茨城県常総市	道草とふ言葉も知らずお迎えの車に乗り込む下校の児らは
守田 靖	千葉県柏市	夕刻を告ぐるチャイムの聞こえ来る畑の杭に鴉とまれり
高野 美咲季	埼玉県さいたま市	どこまでも窓いっぱい秋の雲子供でいたいと足を投げ出す
神田 ミツエ	茨城県常総市	福島沖を回遊してきしや銚子港のマイワシ美味し
高橋 久美子	茨城県潮来市	癌闘病励ましてくれる絵手紙は秋の野の花友より届く
船岡 房公	滋賀県大津市	流行の空調服をふくらませ夏のハウスへ入る老農夫
袖山 昌子	茨城県筑西市	真向かひの空き家ゆるゆる朽ちゆくをわが身に重ね日毎みてる
村崎 絹代	千葉県千葉市	新しき家の窓より聞こえ来る子供の泣く声懐しさあり
三河の空	愛知県豊橋市	三ヶ根の眼下に望む三河湾春を告げたるシラス漁船
金木 喜之	神奈川県横浜市	交差点八階病室振り返る夕日の窓に手をふる妻が
木村 浩	埼玉県春日部市	梅白く咲いて小庭が春めけば石灯籠が目立たなくなる
神郡 貢	茨城県下妻市	鍬の柄のすり減りしまゝのこりをり二の腕太き母をし思ふ
楓川 あけみ	神奈川県小田原市	還りたる父に怯えた三才の吾と重なる戦禍の子らよ
堤 洋子	神奈川県横浜市	ひとり居の友の電話の華やぎて施設入所の連絡受ける
福田 貢一	茨城県つくば市	去年の医療費還付の通知票父から貰う最後の小遣い
田浦 チサ子	福岡県北九州市	夫逝きて語らひのなきひとり居の庭に咲きたり一人静は
北條 恵子	茨城県結城市	鳴くひばり一羽で天を占めながら澄みたる高き声をひびかす
海老沢 幸子	茨城県土浦市	里の寺無住となりて幾年を人達の来て清掃をする
太田 きみ子	茨城県常総市	マンホールの蓋に朝日の輝きて城の模様のくつきり浮かぶ
井坂 道子	茨城県常陸太田市	コロナ禍を掻い潜り来しわれらなるのこるいのちを大切にせむ
角田 好弘	山梨県笛吹市	ボランティアガイドと巡る鶴ヶ城白髪妻の車椅子押す
佐藤 貞子	茨城県常総市	隠り居にさまざまの思ひ胸にあり埒なきことは夕映に吐く
飯田 初江	茨城県笠間市	土に生き土に倒るも存へて鍬に縋れるリハビリの夫
安蔵 みつよ	茨城県水戸市	夫の掘る筍そばから皮を剥く幾重の扉開けゆく如く
大久保 朝一	茨城県筑西市	古民家の梁も鴨居も黒びかり二人仲よく昼餉の Pasta
武井 康子	千葉県千葉市	父母の代の農業偲び鎌を振りブルーベリーの下草を刈る
浜田 光夫	広島県福山市	マスクして顔は見へねどレジを打つネイルの指の若さ見てをり
和田 行雄	茨城県常陸太田市	まっ黒に日焼けした腕なでながら立哨二十年目の勲章
大熊 佳世子	茨城県鹿嶋市	スーパーに七草のパック見し母が寒芹とりし思ひ出きかす
瀧田 勇	茨城県桜川市	玄関の迷い鈴虫なきやみてふけゆく夜をつつむ静寂
永瀬 貞子	茨城県常総市	苦と楽で長さの違う一分間こむら返りの数秒ながし
落合 君子	茨城県常総市	梅雨明けの伸びた雑草刈り終えて土手で頬張るおにぎり旨し
朝岡 恭子	茨城県つくば市	外は雨待ってましたと傘をさしスカイブルーの合羽も着るよ
萩原 清	茨城県石岡市	欲ばらぬ草庵暮し満ち足りて卒寿過ぎても農に勤しむ
佐藤 春夫	東京都足立区	百歳もしゃんしゃんと一人歩きたい明日のためのスクワットする
宮田 カツエ	茨城県桜川市	通り雨過ぎて野仏美男子にえのころ草の揺らぐ野の塚

清水 良郎	愛知県名古屋市	牛たちののぼり終へたるタラップが後ろ扉となりて閉ぢゆく
松田 容典	和歌山県和歌山市	過ぎし日のことには触れずその人の今とひたすら向き合っており
高梨 とし	茨城県久慈郡大子町	掻きとりし葉たばこを手にはほほえめる母の農良着にやにもにおいぬ
三條 千恵子	茨城県日立市	子の代に手放す土地と背を丸め田の面みつめて伯父は言ひたり
伊井 直幸	茨城県稲敷郡阿見町	逝という文字がしみじみ胸に浸む娘が逝きて半年過ぎぬ
穂苺 真泉	長野県安曇野市	酷暑の日々母は食欲なくなりて点滴ベッドにうとうと眠る
須藤 勝栄	茨城県結城市	我が丈を越える荒草一面に鎌一本で挑みされるや
田中 秀夫	茨城県つくば市	夕風が火照りし肌に吹き寄せる青田に稲穂立ち初むる頃
藤林 正則	北海道札幌市	四年ぶりマスクを外し走る子へマスク外した声援がとぶ
中村 みほ子	神奈川県足柄下郡真鶴町	まくわうり食めば仄かな甘みあり夏空はるか故郷の味
田中 郷康	茨城県筑西市	夜通しの牛の分娩重なりてよろめき立ちぬ仔牛と共に
御代田 澄江	茨城県日立市	温き日にこぞりて咲きし白木蓮頬に当つれば亡母の偲ばゆ
大山 幸子	茨城県稲敷郡阿見町	ハミングで仕事に向かう孫娘夫と見送る空は快晴
藤井 重行	山口県宇部市	遺したる母の梅干し含みつつ農一筋の足跡たどる
織田 臣子	茨城県鹿嶋市	畑ありてぼつりぼつりと家のあり列車は見せる鄙なる景を
三井 弥生	茨城県取手市	三年ものコロナ禍乗り越え歌会の友の顔ぶれ生き生きとして
菅谷 千恵子	群馬県吾妻郡東吾妻町	山間に列なる端午の鯉のぼり鯉の幾百風孕みつつ
黒岩 禮子	茨城県牛久市	ひっそりと馴染みの鮭屋閉じられて店主にかけける言葉失なふ
原 比呂子	大分県国東市	村役目引き継ぎ終えて飲む酒に理不尽なことども甦える
黒澤 正則	茨城県日立市	枯れかけた柿の木芽吹いた生きていた我も生きてる春がまた来た
佐々木 二三男	茨城県つくば市	薪を割り五右衛門風呂に火吹竹絵本をめくるような思い出
高木 智帆	和歌山県和歌山市	忘れたよ僕に背を向け遠ざかる君の傘に降る花びらの雨
寒川 靖子	香川県丸亀市	ふるさとは黙してぬく胸底に位置決めて在り動くことなく
徳永 逸夫	高知県須崎市	亡き祖父の日記に残る紙魚のあと古代の謎の絵文字に似たり
服部 明日檜	東京都大田区	木漏れ日が遮光の日傘に反射してくるくるまわる盆はもうすぐ
大森 勝代	茨城県那珂市	残りたる夢の欠片も日々砕け老老二人のその日暮しは
堀内 道子	茨城県潮来市	食べる米あればいいのと若き日の休みは田植え軽トラデート
相沢 正志斎	茨城県水戸市	平日で節生家の長屋門閉まりて軒の像に見入りぬ
吉田 久子	茨城県守谷市	赤ちゃんをだいた息子のぎこちなさあたりまえだねこれからだもの
石嶋 眞知子	茨城県つくば市	「大丈夫何かあったの」とガラス越し九十七さい声高らかに
宇野木 百恵	茨城県つくば市	西の空大きな白い満月の「人よ地球も一つ」とささやく
関口 英夫	結城郡八千代町	鍬打てばぞろぞろ飛び出るじゃがいもに老いの身忘れて次々と掘る